

【解説5】

運動部活動改革について

～休日における中学校の部活動の段階的な地域移行～



※令和5年度地域運動部活動推進事業における羽後町の取組の様子

秋田県教育庁保健体育課
学校体育・部活動チーム

1. **部活動の地域移行とは**
2. **なぜ地域移行するのか**
3. **秋田県の進捗状況**
4. **まとめ**



1. 部活動の地域移行とは

2. なぜ地域移行するのか

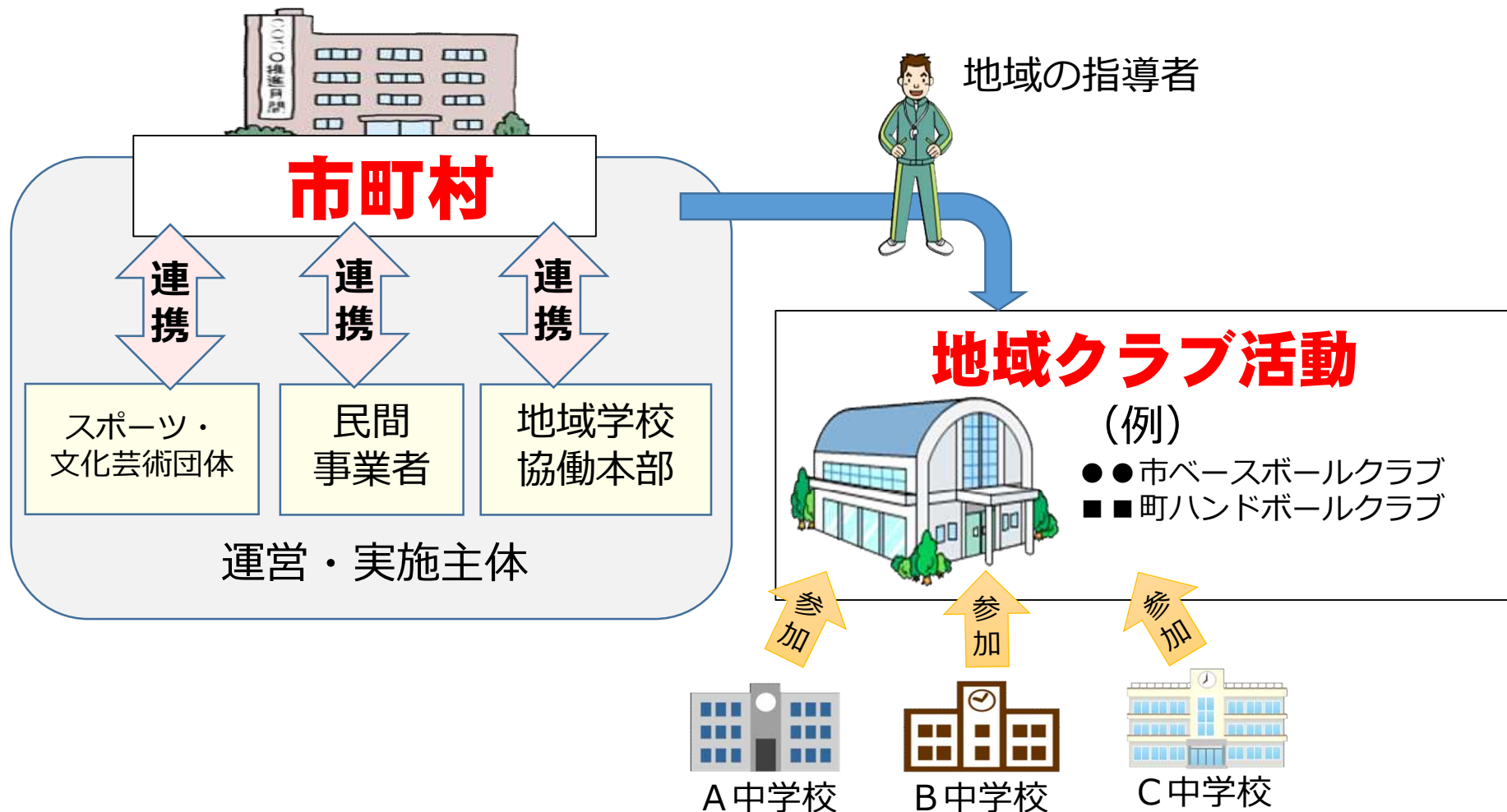
3. 秋田県の進捗状況

4. まとめ



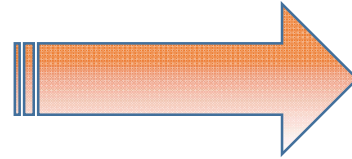
部活動の地域移行とは

地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替するものです。学校とも連携しながら、多様な活動を、可能な限り低廉な会費で実施します。



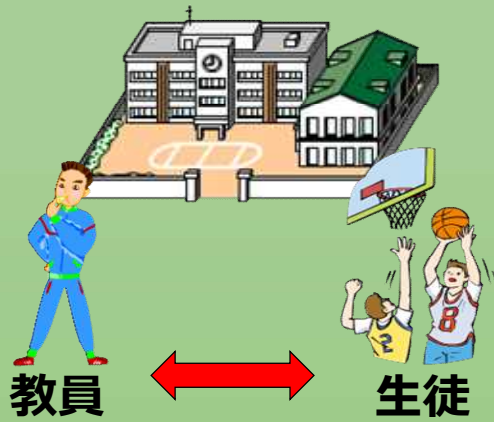
部活動と「地域クラブ活動」の違い

学校部活動

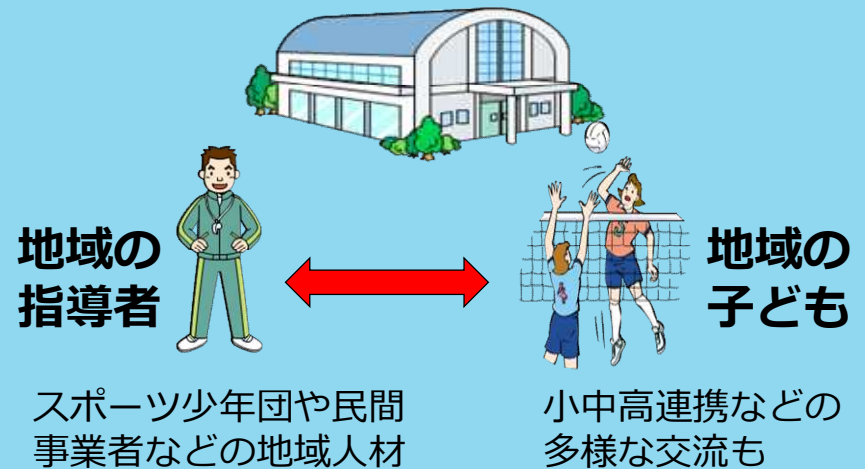


地域クラブ活動

- ・ 学校が主体
- ・ 主に学校の中で実施
- ・ 複数校での合同部活動の導入や、部活動指導員等の地域の人材活用（地域連携）を推奨



- ・ 地域が主体
- ・ 市民体育館、学校体育施設など、多様な場所で実施
- ・ 多世代・他種目な活動



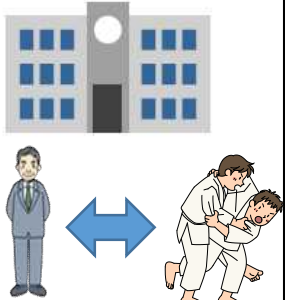
部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行（イメージ）

学校部活動

学校部活動の地域連携

地域クラブ活動

A中（単独）



教員 生徒

例1 合同部活動



A中

B中

教員

例2 部活動指導員
(単独校への配置)



A中

部活動指導員

例3 部活動指導員
(合同部活動への配置)



A中

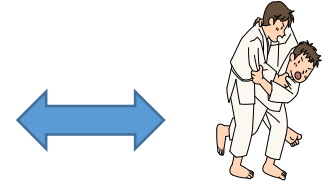
B中

部活動指導員

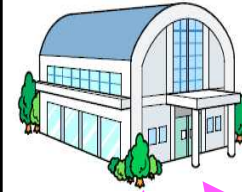
当面は
併存
もあり



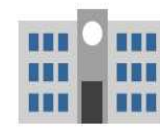
地域の
指導者



地域の
子ども



小中高連携などの
多様な交流も
考えられる



A中



B中



C中

1. 部活動の地域移行とは

2. **なぜ地域移行するのか**

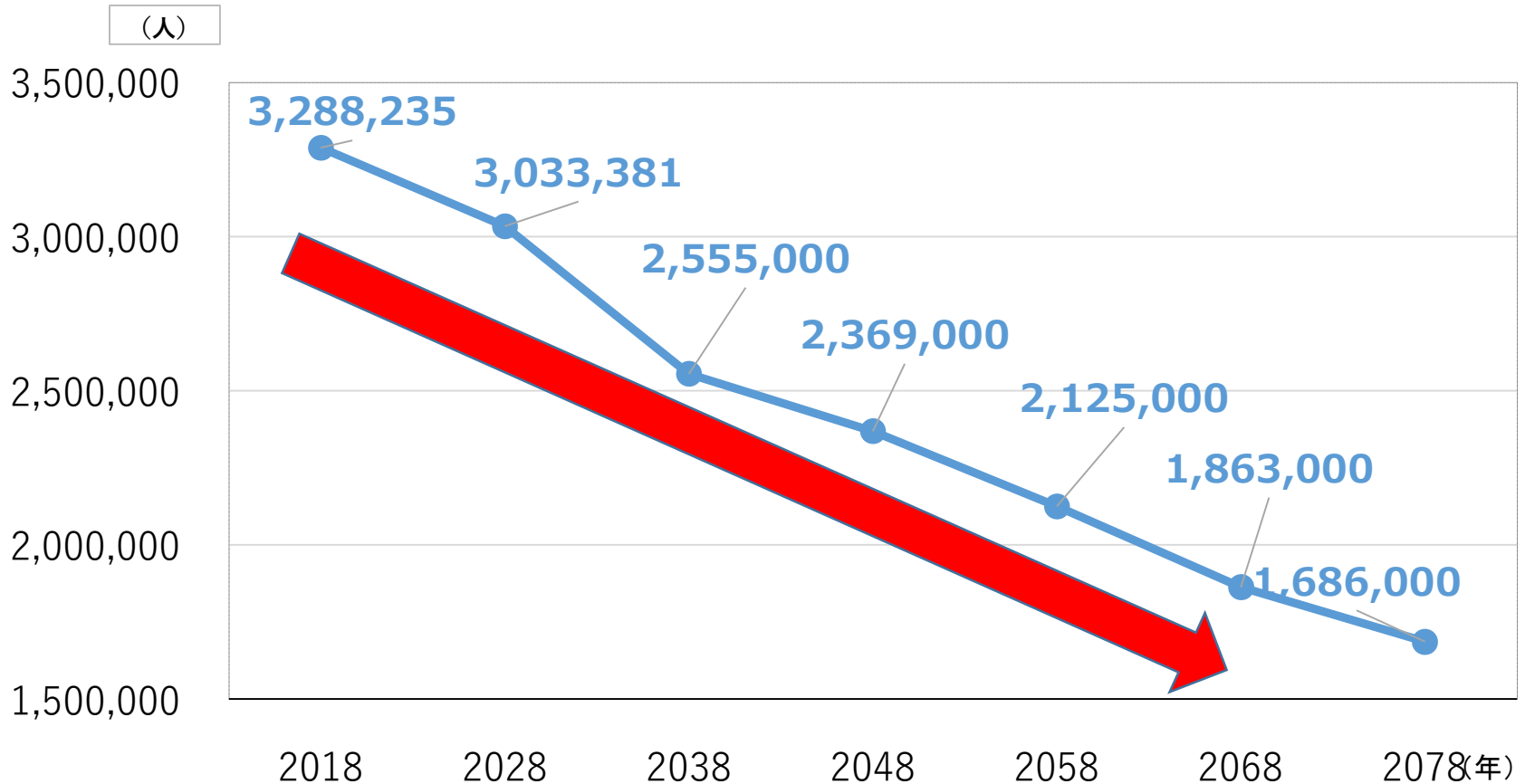
3. 秋田県の進捗状況

4. まとめ



全国：少子化・人口減少の加速化（中学生世代の人口数）

- 学校数の減少、それ以上に進む少子化で部活動は持続困難。



中学生世代の人口数は4月1日時点において12～14歳の者の数

厚生労働省作成「人口動態統計」月報（2017年5月）により算出するとともに、将来の出生者数について、国立社会保障・人口政策研究所作成「日本の将来推計人口（平成29年推計）詳細結果表」の「1. 出生中位（死亡中位）推計」を基に算出。

秋田県における最近10年での変化

◇公立中学校生徒数は約20%減少

H26 : 25,990人 → R5 : 20,504人
(-5,486人)

「学校統計一覧（秋田県教育委員会）より



◇中学校の運動部加入生徒は約30%減少

H26 : 18,163人 → R5 : 12,217人
(-5,946人)

「秋田県の学校体育・健康教育資料集」（秋田県教育委員会）より

◇中学校の運動部数（男女のべ数）は約7%減少

H26 : 1,149 → R5 : 1,080
(-69)

「秋田県の学校体育・健康教育資料集」（秋田県教育委員会）より

→ 1部活動あたりの部員数が減っている

H26 : 約16人 → R6 : 約11人
(-5人)

学校における部活動改革の必要性

【部活動の意義】

- 生徒のスポーツ・文化芸術に親しむ機会を確保。
- 生徒の自主的・主体的な参加による活動を通じ、責任感・連帯感を涵養。生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築。

【部活動の課題】

- 少子化の進展により学校単位での運営は困難（学校や地域によっては存続が厳しい）。
- 教師が顧問を務める指導体制の継続は、学校の働き方改革が進む中、より困難。

 目指す方向性

- ◎ 「地域の子供たちは、地域で育てる」という意識の下、地域のスポーツ・文化資源を最大限活用し、生徒のニーズに応じた多様で豊かな活動を実現。
- ◎ 地域住民にとってもより良いスポーツ・文化芸術の環境整備。スポーツ・文化芸術による「まちづくり」。

部活動改革の第一歩として
「**休日**の学校部活動の
段階的な地域移行」

 **改革推進期間**（R5～R7）

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（R4.12月）より

1. 部活動の地域移行とは

2. なぜ地域移行するのか

3. 秋田県の進捗状況

4. まとめ



秋田県における部活動の地域連携や地域移行に向けたこれまでの取組

1 国事業を活用した実証事業の実施

R 3 :能代市・羽後町 R 4 :大館市・羽後町 R 5 :能代市・大館市・羽後町
R 6 … 6自治体を予定

2 諸会議の開催

- ・ 県地域移行推進事業連絡会（4回／年）
- ・ 県地域移行推進事業連絡協議会（2回／年）

3 情報周知の取組

- ・ 「事業説明会」（部活動指導員配置事業・地域移行推進事業）の開催
- ・ 「地域移行推進事業成果報告会」での情報共有

4 市町村の取組支援

- ・ 市町村の情報・意見交換の場の設定、取組・進捗状況調査の実施・把握
- ・ 県総括コーディネーター配置・派遣による個別支援・助言
- ・ 指導者登録システムの構築による広域的な指導者の発掘・確保

5 「秋田県における部活動の地域移行推進計画（Ver. 1）」の策定

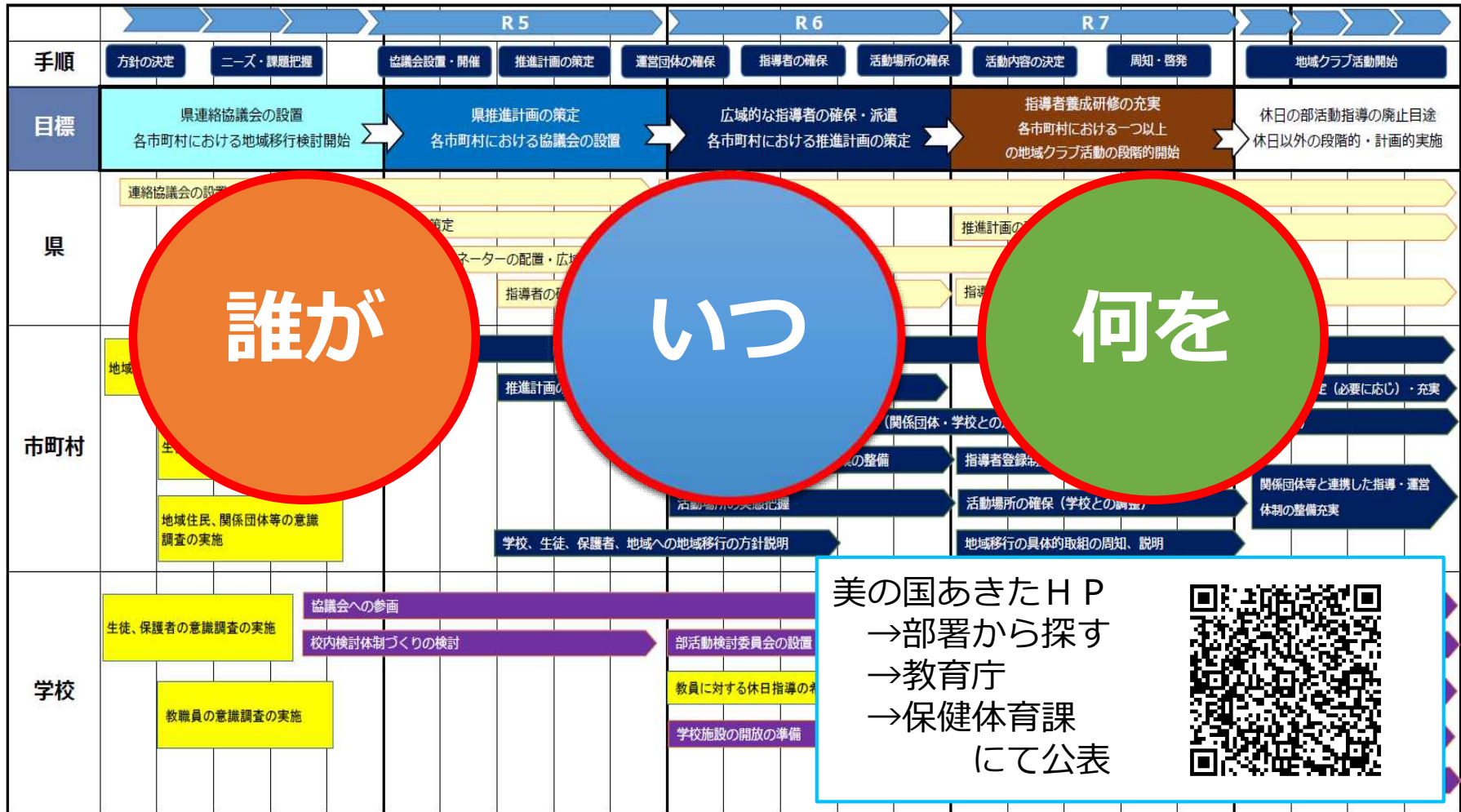
6 「秋田県学校部活動及び地域クラブ活動に関する

総合的なガイドライン（Ver. 1）」の策定

「秋田県における部活動の地域移行推進計（Ver.1）」（R5.8月）より

目指す姿

誰もが身近でスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことのできる環境づくり



秋田県の実績



【県連絡協議会】



【市町村訪問・講演】



【事業説明会】



【成果報告会】

秋田県の実証事業モデル地域の取組例

大館市の取組



休日の部活動を地域指導者が指導
(中高合同での活動も実施)
市内4中学校5部活動

羽後町の取組



休日の部活動を地域指導者が指導
(スポ少との合同活動も実施)
【通年】陸上、ハンドボール、柔道、ホッケー
【短期】卓球、男子バスケ、男子バレー

能代市の取組

4中学校合同部活での活動実績があるソフトボールのクラブ化を実施

「秋田県学校部活動及び地域クラブ活動に関する

総合的なガイドライン(Ver. 1)」 (R6.3月 秋田県教育委員会) より

秋田県学校部活動及び地域クラブ活動に
関する総合的なガイドライン
(Ver. 1)

令和6年3月
秋田県教育委員会

内容

I 学校部活動

II 新たな地域クラブ活動

III 学校部活動の地域連携や地域クラブ 活動への移行に向けた環境整備

IV 大会等の在り方の見直し

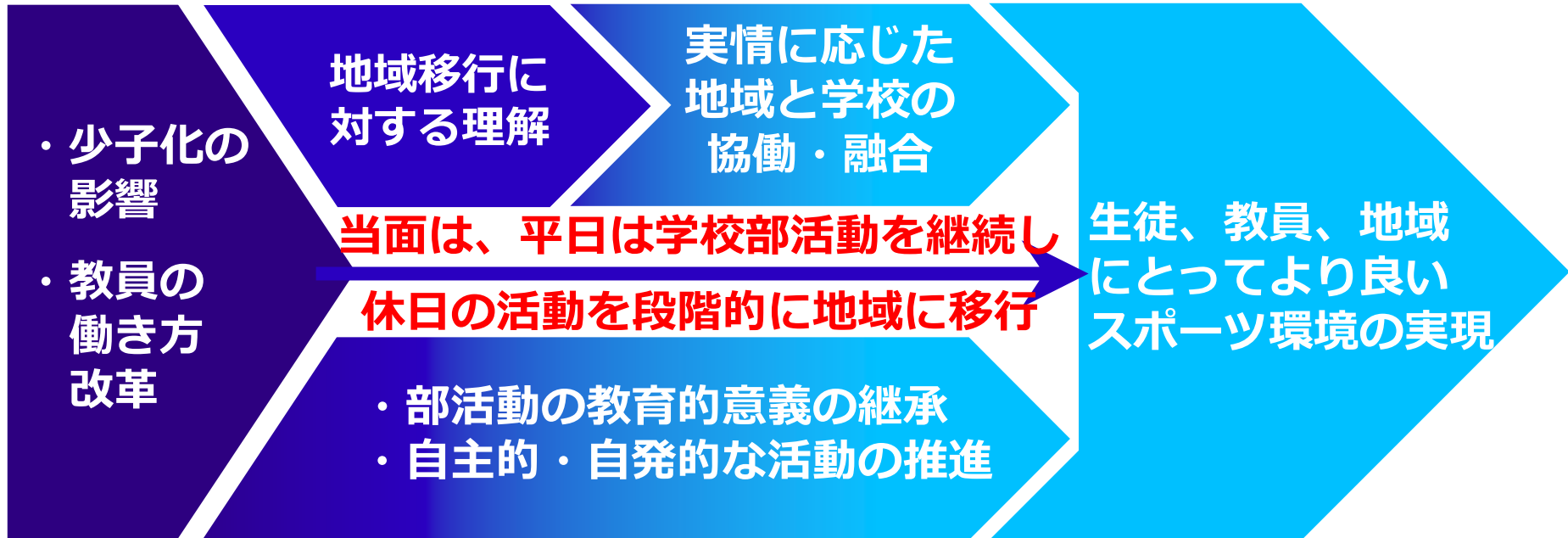
美の国あきたHP
→部署から探す
→教育庁
→保健体育課
にて公表



1. 部活動の地域移行とは
 2. なぜ地域移行するのか
 3. 秋田県の進捗状況
 - 4. まとめ**
-



まとめ



学校での学びをより深めたり、広げたりしながら
新たな学びを生み出す機会と捉える。
地域移行はそのための「手段」の1つ。

**5年、10年先の子どもたちの“幸せ”を見据えて
より良い地域のスポーツ環境をつくっていく**

御清聴ありがとうございました。

